

HYOGOの地場産業



摂津 洋服

ファッション都市・神戸

神戸開港翌年の1869年、イギリスの洋服商カベルが旧居留地にテーラーを開いたのが神戸洋服のはじまりとされている。欧米文化の流入や海と山の恵まれた自然環境を背景に戦後、多くの企業が神戸に本社を置き、商品企画・デザインと卸機能を中心に成長してきた。高級ブラウスやニット製品の婦人服をはじめ、子ども服、ベビー用品等神戸らしい特徴を持つ商品は「神戸ファッション」として全国的に高い評価を得ている。



播磨 皮革

成皮革生産量日本一

兵庫県の製革業は、弥生時代後期に大陸からの帰化人が鞣製技術を伝え、その基礎を築いた。江戸時代中期に全国的な商品経済の発達と姫路藩の重商政策で発展。明治期の近代的鞣製法の取り入れと大正期の軍需専門化により急速に企業化が進んだ。皮革一次製品のなめし革の生産拠点として発展し、多くの工場が独自技術を開発し、全国有数の高級皮革産地に成長。現在、姫路市の高木・御着・網干、たつの市の松原・誉田・沢田、太子町などが主な産地。



丹波 丹波焼

日本六古窯 丹波焼

丹波焼の発祥は、平安末期から鎌倉時代のはじめと言われ、約850年の歴史があり、現代まで生産が続く代表的な窯業地である「日本六古窯」(瀬戸・常滑・信楽・越前・丹波・備前)のひとつに数えられている。一貫して素朴な「生活用器」を主体に焼き続けており、平成を経て、伝統技法を活かしながら自由な発想でモダンな器を生産する窯元が増え、昔と今が融合する「レットロモダン」が丹波焼の新たな魅力となっている。



但馬 杞柳製品(豊岡杞柳細工)

柳で編む伝統的工芸品

2000年の歴史を持つ豊岡杞柳細工は、江戸時代に藩の保護奨励・専売制により「豊岡の柳行李」として知られるようになった。明治時代に「行李かばん」が創案され、大正時代には「大正バスケット」が大流行。戦後、買い物かごやショルダーバッグ、かごバッグも作られるようになった。1992年、国の伝統的工芸品に指定され、2007年、地域団体商標として登録。職人らは材料のコリヤナギの栽培、収穫、素材として整え編みあがるまで全て自らの手でやる。



兵庫 マッチ

マッチ生産量日本一

マッチの生産は1875年に東京で始まり、国内市場を満たす輸出中心の産業となり、貿易に有利な大阪・神戸近辺に業者が集積した。華僑の手による輸出、豊富な労働力や晴天が多い気候条件などから兵庫県が生産の中心になった。生産地は神戸から次第に西へと移り、現在、自動マッチ製造機があるのは姫路市と岡山市に一つずつ。兵庫県の全国シェアは80%で、生産量の10%は米国向け中心に神戸港から輸出している。



播磨 靴下

靴下の三大産地

播磨地域での靴下製造の発祥は、1886年に印南群志方町の住民が上海から手廻しの靴下編立機を持ち帰り、製造を始めたことによる。大正初期に半自動式靴下編立機、1924年に自動編立機が輸入されて技術革新が進んだ。1923年の関東大震災で靴下の一大産地の東京が被害を受けたことから播磨の産地規模が急速に拡大した。現在、奈良、東京とともに全国三大産地を形成している。



播磨 播州織

染・織・加工技術が光る先染織物「播州織」

寛政4(1792)年、現・西脇市比延町の宮大工、飛田安兵衛が京都・西陣から織物製作の技術を導入したことが起源と伝えられている。先に糸を染め、染め上げた糸で柄を織る「先染め」が特徴。自然な肌触りと豊かな色彩を生かした生地は、シャツやブラウス、ストールなど様々な製品に加工されている。品質の高さから国内外のブランドの生地にも採用されている。 ※素材・柄・生産・出荷まで全工程完結型の唯一無二の産地である。



但馬 豊岡のかばん

鞆生産量日本一

豊岡盆地に多く自生していた「コリヤナギ」を原料にした「杞柳細工」で作られたカゴを起源とし、1881年、八木長衛門が第2回内国勲業博覧会に「行李鞆」を創作出品したのが豊岡におけるかばんの源流と言われている。国内最大のかばんの生産地としてOEM生産を中心に発展してきたが、今は「豊岡」の各企業が自社ブランドの確立に取り組み、関連商品や環境に配慮した製品等も展開。2006年、兵庫県鞆工業組合の「豊岡鞆」が地域団体登録商標として認定された。



淡路 線香

線香生産量日本一

淡路島の線香づくりの歴史は、1850年代まで遡る。商業港として栄えた江井浦の住人が地域の維持発展を願い、線香づくりをはじめた。船が出せず暮らしを妨げていた冬の風は、線香を乾かすのに大いに役立った。燻煙や灰落ちの美しさにも気を配り、手間を惜しまず1本、1本丁寧に仕上げる淡路島の線香。代々家業を受け継ぐ14人の「あわじ島の香司」は伝統を守りつつ、日々新しい香りの創作に励み、世界に向けて発信している。



【ひょうご国】とは

兵庫県内5国それぞれの国(摂津/播磨/丹波/但馬/淡路)の産業や技術に注目。次代を担う各地のアーティスト、クリエイター、職人の技を繋ぎながら、兵庫県のモノ作りの素晴らしさを、世界に発信するプロジェクト。2022年から(公財)神戸ファッション協会が中心となり、取り組んでいる。

出店ブランド

第1週 8月27日(水)～9月2日(火)				
マッチ	靴下	皮革	播州織	
丹波焼	豊岡のかばん	線香		
第2週 9月3日(水)～9月9日(火)				
洋服	靴下	皮革	丹波焼	杞柳製品
播州織		豊岡のかばん		

会場：大丸神戸店

〒650-0037
神戸市中央区明石町40番地
営業時間 10:00～19:00

- 電車でお越しの場合
JR元町駅、阪神元町駅より南へ徒歩3分
地下鉄海岸線
旧居留地・大丸前駅よりすぐ
- お車でお越しの場合
・BLOCK30 大丸カーポート
・デビスパーキング2(海岸通)
【提携駐車場】



主催：(公財)神戸ファッション協会
協力：兵庫県・大丸神戸店



Hyogo Koku ®

HYOGO産を世界に発信する
PROJECT2025

“MADE IN HYOGO”の 展示販売会

会場：大丸神戸店 6階 M BASE

8月27日(水)～9月9日(火)
10:00～19:00 ※但し、9月2日(火)と9月9日(火)は18:00まで

- 第1週 8月27日(水)～9月2日(火)
- 第2週 9月3日(水)～9月9日(火)

【主催】(公財)神戸ファッション協会
【協力】兵庫県・大丸神戸店

コラボ 新しい価値の創造！

【HYOGO 産地×産地】

THYMEBUCKS × POLS 第2週

2023年のひょうご国コラボプロジェクトをきっかけに、POLSのカットジャカードに魅せられてついに「豊岡鞆」が完成。「Kram」は、スウェーデン語で「ハグ・抱擁」などを表す言葉。二つのブランドがハグをして溶け合ったように、独特の色使いや柄の表現を最大限に生かした「THYMEBUCKS」らしい仕上がりは、使う人も見る人も心を豊かに楽しませてくれる。



神戸レザー協同組合×未来式 第1週

神戸レザー協同組合と台湾のキュレーション企業「未来式」バイヤーの汪麗琴さんが共同開発したベースボールキャップ。キャップの前半部分にはウォッシュ加工の神戸レザーを、後半部分には台湾・彰化産のrPET100%の通気性に優れた軽量のリサイクル生地を融合させ、高級感と実用性を兼ね備えたデザインに仕上げた。



兵庫 マッチ

兵庫のマッチ 第1週



「日本燐寸工業会」が阪神・淡路大震災の教訓を基に企画した「防災用缶詰マッチ」。2009年の発売以降、防災用品として注目されている。他に丸缶入りのレトロモダンなマッチや懐かしい紙箱の商標マッチなど、部屋に飾っておきたいデザインの数多く取り扱っている。



播磨 靴下

加古川靴下 全期間

加古川靴下

「兵庫県靴下工業組合」のオリジナルソックス。カラフルなカラー展開と擬人化したユニークなデザインを23~26cmのユニセックスサイズで展開。最高級のエジプト綿を使用しており、履き心地がさらっ!としている。



播磨 皮革

kiichi KOBE 第1週



「Made in Japan」にこだわった「Made in Kobe」をコンセプトに、神戸元町で生まれたレザーブランド。神戸ビーフの原皮を活用した皮革素材「Kobe Leather」を活かした革製品を作り続けており、世界に向けて発信している。今回は、台湾のクリエイターとコラボした神戸レザーのキャップも販売する。



【HYOGO×台湾】

モリタ×本質創作室 第1週

豊岡鞆の「モリタ」と異素材の組み合わせに長けた台湾のクラフトユニット「本質創作室」の李雅晴さんが企画し、フィリピンの職人の手編み技術を融合させた3地域連携作品。フィリピンの職人がバナナシルクでカゴを手編みし、モリタが持ち手を製作。バナナシルク編みは現在、台湾の先住民族によって保存されており、台湾や東南アジアの伝統技術を次世代に繋ぐ役割も担う。



LU+ 第1週

豊岡鞆の「モリタ」と台湾のデザイナー「LU+」の盧津姫さんによる「バッグ二つ持ち」スタイルの提案。豊岡鞆はヌメ革を使い、現代風にアレンジ。台湾側は園芸ネット素材を使用した軽量かつ大容量のトートバッグを提案。今回は、台湾側の大容量トートバックのみを取り扱う。



摂津 洋服

MAMAMA 第2週



着物のリメイク教室やシニアのおしゃれ講座などを行う「高嶋デザイン製作所」がプロデュース。国籍・性別・年齢・障がいの有無に関わらず、皆が心豊かになるファッションのユニバーサル化を推進。着物をアップサイクルしたトップスやボトムスなど、地球にもやさしいアイテムが評判。



播磨 播州織

tamaki niime 第1週



西脇市を拠点に Cotton の栽培から紡績や染色、織り、編み、縫製、仕上げまでのすべてを自社で取り組む。播州織の伝統技術をベースに、先染めによる独特な色合い、風合い、昔ながらの織機を使った「点もの」の作品づくりにこだわる。ブランドの代表作ショールほか、シャツやワンピース、パンツ、靴下や日傘などさまざまなアイテムを展開。



POLS 第2週



創業120年以上の老舗播州織メーカー「丸萬」とテキスタイルデザイナー梶原加奈子さんのコラボレーションで誕生。柄や色の切り替わり、織り方の変化による繊細な表現が美しいジャカード織りが評判! ファッションやインテリアのアイテムで「テキスタイルの楽しみ」を発信する。



FUJI GAUZE 第2週



1950年に西脇市で創業した「藤原染工」の自社ブランド。大人気の「くしゅくしゅアームカバー」は、左右で柄や色が異なるユニークな仕様で、長さも調整可能。ワンちゃん型のメガネスタンドや花鳥柄のガーゼタオルなど、多様な布製品を展開。



織馬鹿

織馬鹿 第2週



播州織の製造元「織馬鹿」が自社商品を開発。「柄」と「模様」のアクセントが特徴的なジャガード織のストールは、織り上げた生地を洗って干す工程を何度も繰り返すことで、肌触りは柔らかく、それでいて型崩れのしにくいものに。全国伝統的工芸品公募選入選など、その技術は折り紙付き。



hatsutoki

hatsutoki 第2週



西脇市にある「島田製織」のファッションブランド。奥行きのある色味が特徴の播州織を用いたストールやシャツ・ブラウスをはじめ、天然素材の涼しげなパラソルや晴雨兼用傘の人気も高い。傘は全商品に撥水とUVカット率90%以上の加工を施し、ハンドルのカスタムオーダーも可能。



WOVE MELT 第1週



播州織をベースとした様々な布製品を提案する「大化産業」。同社の4代目、高橋直也さんが中心となって運営するプロダクトブランド。名刺入れや小物入れをはじめ、布の織り紙も手掛ける。播州織を使った小物や自社のアップサイクル素材を活用したアクセサリなども展開。



Gohobi 第2週



「藤井茂織布」が手掛ける播州織の生地を使用したブランド。独特な色使いと複雑な織柄が特徴。「ご包美」を「ご褒美」に…をテーマにしたストールの数々は、凸凹感あるカジュアルな生地やストライプ生地、独自の色使いで複雑な織り柄はもちろん、肌触りのすばらしさにも定評がある。



mulberry fabric 第2週



「桑村織維」が展開する播州織を使用した製品雑貨ブランド。「アパレル服向けに開発された生地を身近な生活雑貨に…」をコンセプトに、伝統的なタータンチェック柄の小物を提供。かわいいうるむシューズやサコッシュ、バッグなどにファンが多い。



clocomi

clocomi 第2週



多可町で播州織を製造する「コンドウファクトリー」が「暮らしによるこびを届ける」をコンセプトに、ジャカード織機で織った生地やグッズを展開。天然素材コットン100%の3重ガーゼタオル「こなゆき」はまるでパウダースノーのように「ふわさらっ」とした肌触り!



丹波 丹波焼

市野伝市窯 第1週



創業者の市野伝市さんは古くから菊鉢や朝顔鉢を作陶してきたが、約50年前に山野草の愛好家からの依頼をきっかけに「植物の生育を第一に考えた」陶器製植木鉢専門に作陶する窯に。現在は達也さん(二代目)、弘通さん(三代目)が守り継ぐ。丹波焼は欠けても、金継ぎで修復できることも魅力。



雅峰窯 第2週



1890年より丹波焼を作り続け、現在は市野秀之さん(四代目)、健太さん、大輔さん、三人で作陶。伝統技法の「鑄(しのぎ)」の作品を中心に、現代の生活にあう、使い勝手にもこだわった器を作る。食卓に取り入れやすい白系の色味やトルコブルー、ピンクなどモダンな色柄の組み合わせが評判。



但馬 豊岡のかばん

CREEZAN 第1週



半世紀にわたり、一貫して鞆づくりに携わる「コニー」自慢のラグジュアリーバッグブランド。「純白」のイタリヤ産のジュリクレザーシリーズは傷がつきにくく、強撥水&防水加工で汚れや雨にもすこぶる強い。バッグにスカーフを付けたら、ホワイトカラーに映えるアレンジも楽しめる。



THYMEBUCKS 第2週



シンプルでありながら、個性的なフォルムや独特な味わいを愉しめるバッグが評判の「THYMEBUCKS」。素材を有効に使い切る鞆づくりをモットーに、廃棄を減らすため1枚の裁断パーツから作り上げるリサイクルツイードのバッグなど、環境にやさしく、ほどほどに強さを兼ね備えたバッグを提案。



TOTTE 第1週



鞆の持ち手などのパーツ製造で、世界的有名ブランドのOEMに携わってきた「モリタ」。同社が展開するオリジナルバッグブランド「TOTTE」は自社の持ち手を十二分に生かしたシンプルながら存在感たっぷりなデザイン。台湾のクラフトユニット「本質創作室」や台湾デザイナー「LU+」のコラボ作品づくりにも取り組んだ。



Maison Def 第2週



“ここでしか出会えない”をテーマに人気を集める、豊岡・カバンストリート発のアトリエ&ショップ。「糸を使わない」という独自の構造で仕立てられる「rivet bag」は、豊富なラインナップから素材やリベットの色を自由に選べるカスタマイズ性が魅力。【カスタムオーダー会】9月7日(日) 13:00~19:00



但馬 杞柳製品(豊岡杞柳細工)

KAORI YAMAMOTO 第2週



豊岡杞柳細工は豊岡市のコリヤナギでかさを編んだことに始まり、2000年の古い歴史を持つ。豊岡市出身の豊岡杞柳細工作家・山本香織さんの作品は編み目の緻密な美しさが特徴。かご&神戸レザーや播州織など、素材の組み合わせが絶妙で、唯一無二の魅力を生み出している。



淡路 線香

あわじ島の香り 第1週



14のアトリエが加盟する「兵庫県線香協同組合」の各香司(香りのマイスター)が伝統を重んじつつも、新しい世界観を提案。柚子や金木犀、コーヒードなどの身近な要素を加えたり、波の華など淡路島の風景をイメージしたり。より現代的な感性に応える新しい香りの創作に励む。



TRUNK DESIGN 第1週



兵庫のメーカーと協業して多様なプロダクトを生み出す垂水のアトリエ「TRUNK DESIGN」。Dailyは、産地で毎日作られているスタンダードなものを、現代に使いやすい形にデザインしたお香ブランドです。毎日使いたくなる、シンプルで飽きのこないDailyをお楽しみください。

